

# ウムチョ ムィーザ通信

No. 55

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

ウムチョムィーザ学園から

カンベンガ・トゥイクンデ・フランソワーズ校長より



日頃より、ウムチョムィーザ学園を支えてくださっている皆様に感謝申し上げます。グローバルな時代、とうとうルワンダでも新型コロナウイルスの感染者がでました。1日も早く落ち着くことを祈ります。

ウムチョムィーザ学園は日本の多くの方々に関心を寄せていただき、NPO 法人ルワンダの教育を考える会を通してサポートいただいているおかげで、今日を迎えられています。マリールイズを通して、日本の多くの方々と知り合い、またルワンダという国を知っていただけていることに感謝します。

貧しい家庭の子ども達がウムチョムィーザ学園には多く通っています。私立の学校では受け入れを断られて入学してくる子ども達や、また家庭の事情が厳しい中でも、どうか子どもに教育だけはしっかりと受けさせたいなどという思いがあり、そういった様々な背景のある家庭の子どもでも、分け隔てなく受け入れ、一人一人の子ども達によりよい教育を受けさせることができるか毎日考え、努力しています。



昨年は、247名がウムチョムィーザ学園で学び、2019年11月8日に38名の卒業生が巣立っていきました。小6のうち22名は最上級の成績をおさめ、16名も2番目に優秀という素晴らしい結果をおさめ卒業できました。このように子ども達が1人も欠けることなく卒業できたのは、日頃から子ども達一人一人と熱心に向き合って教えている各担任や教科の先生方、スタッフ、加えて子ども達から熱い信頼を得ている教頭先生、そして日本のみなさんからのサポートのおかげだと思えます。私の一番の喜びは、こうして子ども達のために働けること、そして子ども達が安心して学校に笑顔で通ってきてくれることです。そして一人一人の子ども達が優秀な成績をおさめ、未来に羽ばたいてくれていることがとても嬉しいです。

2020年という新しい年の本校の目標は、学校の運営に20年間携わってきた一員として、歴史のある学校・活動を今後も続けていくために、新たな課題にチャレンジしていくこと。20年を振り返り、原点を忘れることなく気持ちを新たに、そして後世にしっかりと引継ぎができるように、今後も学校の責任者として努めていきたいと思えます。





## ウムチョムィーザ学園報告（3学期）

○ 2019年8月1日～12月31日 学費の納入状況報告

生徒数：247名（2学期より8名減）

学費計画：3学期100,000ルワンダフラン×247名

完納	129名
一部納入	104名
全額未納	14名



\*2019/12/31現在時価換算による。

	予算	決算	
2019年3学期学費収入	2,812,960 円		
2019年3学期納入額		1,866,000 円	66.3%
2019年3学期未納額		946,960 円	33.7%
前学期までの未納分納入額		114,090 円	

（1人あたり=3学期100,000ルワンダフランを約11,388.5円に換算）



○ 2019年8月1日～12月31日 学園会計報告

〔収入〕

〔支出〕

円換算

項目	金額	項目	金額	項目	金額
学費【前学期未納分も含む】	1,980,090	職員給料	1,761,010	広報費	0
入学登録料	19,816	職員ボーナス	0	住民税	13,325
学校保険掛金	0	年金掛金	217,873	交際費	53,184
給食費収入	245,969	健康保険料	266,012	銀行手数料	6,284
ピアノレンタル収入	0	国税	551,445	制服布地	0
制服・学用品販売	0	給食経費	380,436	銀行借入返済	0
制服作成室賃貸	0	光熱水費	23,950	職員へ前貸し	0
多目的室賃貸収入	14,805	通信費	17,311		
アンテナ収入	0	消耗印刷費	127,973		
水販売収入	0	旅費交通費	129,943		
その他の収入	29,466	会議・研修費	51,134		
考える会からの支援	1,366,620	施設維持費	84,696		
個人寄付	41,841	弁護士料	64,345		
補助金	0	生徒医療保険	285		
繰越金	277,566	備品購入	0		
個人からの返済	0	建設修理費	0		
		小計	3,676,413	小計	72,793
合計	3,976,173			合計	3,749,206



残金 226,967

2020年2月当会事務局長ルーシーがウムチョムィーザ学園へ154,848円のご寄付を直接贈呈することが出来ました。新潟の〈RWAN-JA様〉の街頭募金や福島の〈まちなか夢工房様〉食パン売り上げの一部を給食支援サポートとしていただいたことに感謝します。

# NPO法人ルワンダの教育を考える会ルワンダ事務所からの報告

ルワンダ支援の会計報告

\* 2019 / 12 / 31 現在時価換算による

期間：2019年10月～12月

単位：円

ADESOC	ミヨベプロジェクト	奨学金	ルワンダ事務所	計
911,080	176,248	110,047	932,180	2,129,555

※ 日本の円をルワンダへ送金すると、日々金額が変動するので、報告額を単純に比較できないので、おおよそのお金の動きとしてご理解願います。今回は 100 ルワンダフラン≒11.39 円で表記します。

ルワンダ事務所より

ルワンダ事務所責任者

アキンティジェ シンバ カリオペ

[ 2019年9月～12月 プロジェクト支援報告 ]



## 1 学校健康プログラム(健康診断シンポジウム)

研究者によると健康診断は、学ぶ子ども達に大きな役割を果たしていることが示されています。そこで、当会が4年間継続して行っている健康診断についての報告をもとにルワンダの子ども達の健康を考えるシンポジウムを、2019年9月20日キガリで開催することが出来ました。小児科のドクターや看護師・公衆衛生の専門家・幼稚園小中学校の校長・医学生等約60名そしてゲストとして在ルワンダ日本大使に参加していただきました。開催にあたって、長崎大学・岡山大学・AMDA・フェリシモジャパンそしてルワンダの厚生省や教育省のご協力を頂いたことに感謝します。

ルワンダでの健康診断のあり方について協議できたことは、今後の子ども達の健康についてとても貴重な会議でした。



シンポジウム参加者

## 2 ミヨベプロジェクト

当会のルワンダ事務所をとおして歴史的に取り残された地域と言われるミヨベの入学前の子ども達に給食を続けています。

その他、衛生環境の改善・栄養失調をなくすために親達への野菜作りの指導等自立支援を続けています。



野外でのランチ給食

## 3 ADESOCへの支援

ADESOCからウムチョムイーザ学園の運営及び進学困難な中学生への奨学金として、要請に応じて、当会のルワンダ事務所から出来る範囲の支援を行っています。

## 4 当会ルワンダ事務所の役割

ルワンダ事務所の大きな役割は、現地のニーズやそれに応えていくための様々な情報を日本と共有して、NPO法人の目的を成し遂げていくことです。

その一つとして、現在ADESOC(ウムチョムイーザ学園)とのより良い協力関係のためにもお互いの役割のマニュアル作りを準備しています。



最後に、ルワンダの子ども達の教育に力を注いでくださっている皆様に感謝しています。皆様の協力によって持続可能な平和と発展は毎日感じています。これからもよろしく願います。



保原ロータリークラブ（福島県伊達市）では昨年2月の理事会で、ルワンダの最貧困層が住むギチュンビ郡ミヨベ地区の住民に対してグローバル補助金制度を活用した生活支援を行うことを決定しました。そこで、昨年4月13～22日にマリールイズさんの案内で当時会長であった私と妻、金沢会員の3名でルワンダを現地視察しました。日本大使館公邸、ウムチヨムイーザ学園、現地のロータリークラブ、JICA等を訪問した後、4月18日にミヨベ地区を訪ねました。最初にギチュンビ市長を表敬訪問し、その後市長も同行して現地に向かいました。



ミヨベの集落までの道のりは最近舗装されてアクセスがかなり改善されたようですが、標高2000mを超える山の頂にあり、やはり隔離された感否めません。舗装路を離れて赤土の急なデコボコ道を上ると数軒の民家が現れ、まもなく目的のECD (Early Childhood Development Center) に到着しました。

ここではミヨベ地区に住む25戸の住民と子ども達、それに周辺地区に住んでECDに通う子ども達とその親御さんが出迎えてくれました。最初にECDセンターに通う子ども達への給食の様子を見学しました。この給食支援を始める前は、家の手伝いや親の理解不足からECDに通えない子ども達が大勢いて、道端で死んだように寝ているだけの生気のない子どもも多く見かけたそうです。今は給食の効果で子ども達に笑顔が戻り、明るい歓声が響くまでになっていました。ミシンを習い始めたお母さんたちの裁縫の様子も見学しました。まだまだ技術は稚拙ですが、一生懸命取り組んでいる姿と得意げな顔が印象的でした。



歓迎レセプションでは市長や我々のあいさつの後、住民によるリズムに乗った楽しくも激しい踊りを披露してくれました♥

歓迎レセプション終了後にマリールイズさんの紹介で住民の家を拝見しました。外見は土壁造りのしっかりした家に見えましたが、中に入って見て絶句してしまいました。内部は3部屋に分かれていて、リビングには水汲み用のタンクと毛布のような敷物が一つあるだけです。普段家族はここで過ごすそうです。上を見上げると屋根や壁は隙間だらけで雨が降れば浸水して床はドロドロになってしまいます。奥の一番大きな部屋は寝室ですが寝具も着替えも見当たらず、聞いてみると服を着たまま地べたにごろ寝するそうです。雨の夜はどうして過ごすのだろうと思ってしまいます。もう一つの小さな部屋には古びたベッドがおいてありましたが特別なもので、出産や病気の時などしか使用しないと聞きました。



台所は別棟ですが質素な鍋が一つあるだけで食事は一日に1～2回が普通だそうです。イモ、マメ、穀類の栽培も、マリールイズさん達の努力で収穫できるようになってきましたが、土壌改良や農業技術の向上にはまだまだ多くの課題があるように見えました。



現地の生活状況は厳しいものがあります。居住環境、衣食住、衛生環境、耕作状況等全ての面で、援助の必要を感じます。これらの問題の根本原因は、



①住民の大半がまともな教育を受けられず定職を持っていない、②居住地が2,000mを超える高地で水の確保が難しく衛生環境の改善が進まない、耕作物の安定的収穫が望めない、など生活の基盤が脆弱なことにあると思われます。

そこで私たちはまず①水の確保、②農業支援を中心に、本活動を通して住民が自立した生活を営める力を得られるよう計画を立てています。皆様からの応援、ご支援をよろしくお願いいたします。

## ルワンダ訪問記

中島村村長 加藤幸一

私たち3名(村長・教育長・幼稚園長)は令和元年7月31日から8月7日の日程でルワンダ訪問の機会に恵まれました。平成30年11月29日から約1か月中島幼稚園で幼稚園教育の研修を体験しルワンダに帰国した Prossy 先生の研修成果と課題に対するフォローアップの検討、更にはルワンダ教育省・キガリ市社会開発局・JICA ルワンダ事務所との会談も重要な目的でありました。

羽田空港を真夜中に出発しカタル・ドーハにてトランジット更にウガンダのエンデベ経由でキガリについたのは羽田を出発してから約21時間後でありました。タラップを降りて空港ターミナルに向かう足取りは、長時間の座位から解放され体重が一気に足腰にのしかかってきたなと感じてしまいました。入国審査では Arrival Visa の取得で2・3の質問のあと問題なく入国できました。空港の出迎えロビーでは花束をもったマリールイズさんや学園関係者の歓迎を受けると、旅の疲れが癒されました。また赤道直下という事でさぞかし暑いのだろうと覚悟を決めていましたが、摂氏27~8度という気温は乾期ということもあって私にとっては程よい気候で快適に滞在をすることが出来ました。ルワンダは千の丘の国といわれているようでほとんど平地が見当たらない丘陵風景が続いておりましたが唯一私たちが見た平原は自然動物保護区になっている Akagera 国立公園のサバンナだけであったような気がします。



さて到着後2日目からは25周年を迎えたジェノサイトメモリアルセンターの見学からスタートしました。また本来の目的でありました、ウムチョムイーザ学園での理事長、校長先生、教頭先生と懇談会、さらには幼稚園では年長組担任の Prossy 先生の英語での授業風景を見学することが出来たことは、大きな意義がありました。ウムチョムイーザ学園のみならず多くの学校での課題は就学率を上げることと十分な給食を提供することは大きな因果関係があるということを知られました。つまり、貧困家庭の子ども達は、空腹を満たすために学校に来るといっても多数いるという事であります。しかし給食費を納めることが出来ず、給食を食べることが出来ない子どももいるということを聞いて何か手を差し伸べることが出来ないのかと思わずにはいられませんでした。



学園で Prossy 先生と

ジェノサイトから奇跡的な発展を遂げようとしているルワンダではありますが、貧富の差は日本では想像もつかないほど大きくて政治の課題は計り知れないものがあるように感じられたところです。マリールイズさんが現在取り組んでいるすべての子ども達への教育の普及は必ずしも容易ではなく、しかしその果敢な熱意をもって挑戦していることに改めて感激を覚えました。かつての日本が辿ってきた義務教育の普及こそがルワンダの平和と発展に結びつくのではないのでしょうか。子ども達の屈託のない人柄と目の輝きを見た時に、一定の施策が施されれば、必ずや国の発展に結び付くと確信をし、また教材が十分でなくても先生方がそれぞれ工夫を凝らして独自に教材を作成していることに、感銘を受けた次第です。

治安も大変良くて安心して旅行も楽しめる、そして大きく発展を伴った変化を遂げようとするルワンダを皆さんも是非訪れてはいかがでしょうか？ここでは書ききれない素晴らしい体験が待っていますよ！

「百聞は一見に如かず・Seeing is Believing」と申し上げ報告といたします。



文教大学国際学部 2年 片山五月

ルワンダの教育を考える会の皆様、はじめまして。2019年10月からルワンダに滞在している、片山五月と申します。ウムチョムイーザ学園にはインターンシップとして関わらせていただいております。また、学園の校長先生の自宅にホームステイさせていただいております。このような素晴らしい体験をさせていただき、初海外をルワンダに選んで本当に良かったと思っています。

先日1月31日に、現地にある日本食レストラン「KISEKI」とコラボレーションをし、ウムチョムイーザ学園でピアノ演奏会を企画させていただきました。演奏していただいたプロのピアニストの西津啓子さんは「KISEKI」に滞在されており、より多くの子ども達やルワンダの方々の前で演奏をしたいという想いを持ってルワンダに訪れたそうです。



今回のピアノ演奏について、西津さんから以下のコメントをいただいております。

『今回のルワンダ旅行で最も印象に残ったのが、ウムチョムイーザ学園の訪問です。子どもたちは普段ピアノの生演奏を聴く



機会はないということでしたが、私のピアノに合わせて身体を動かしたりメロディーを口ずさんだり…驚くと同時にとても嬉しかったです。

また、彼らが披露してくれたピアノの連弾とダンスも素敵でした。是非またここに戻ってきて、今度はピアノを聴いてもらうだけでなく、音楽を教えることで役に立てたらと考えています。』

私は中学校・高校と6年間吹奏楽部に所属していました。また、大学では和太鼓部に所属しています。私の人生の中心は常に音楽です。音楽は人の感情を動かし、笑顔にも涙にも変えることができる魔法です。また、自分以外の誰かと音楽を奏でる時間は一生の思い出になります。そんな音楽を通じ、ウムチョムイーザ学園の生徒とピアニストの西津さんを繋ぐことができ、とても嬉しく思います。

最後になりますが、この場を提供してくださったマリールイズさんをはじめとする学園の関係者の皆様や演奏会開催に協力してくださった日本食レストラン「KISEKI」のオーナー山田美緒さん、素敵な演奏をしてくださった西津啓子さん、そして演奏を楽しんでくれたウムチョムイーザ学園の生徒の皆さんに心から感謝いたします。残りのルワンダ滞在期間もルワンダの子ども達の学ぶ場をより多く提供できるように頑張っていきたいと思っております。

## 【ルワンダ写真展&ルワンダ報告会 2020・1・6~11】



ルワンダの教育を考える会の新年の始まりは、ルワンダ写真展から！！福島市内チェンバ大町にて6日間開催いたしました。2019年度の1年間の活動写真やまた、今年で設立20周年を迎える団体のこれまでの活動を新たに加え、模造紙にたくさんの写真を貼り紹介しました。印象的だったのは、第2回目の開催となったウムチョミーザ学園運動会の様子を写真で見た方々から「日本の運動会でみる玉入れや、綱引きをイキイキと楽しそうにしているのが伝わってくる」という声を多く聞いたことです。また、同年代の子ども達の写真をみて、同じ小学生のお子さんからは、「僕もいつかアフリカのルワンダっていう国に行ってみたい！」と嬉しい声を聞くことができました。

写真展の最終日には、元ラジオ福島アナウンサーの大和田新さんと千葉県で活躍するなかよし学園校長の中村雄一さんファミリーを迎え、それぞれが昨年ルワンダへ渡航したときの体験や、ルワンダからのメッセージを報告してくださいました。



大和田新さんには、ウムチョミーザ学園の子ども一人一人に将来の夢を聞いたインタビューや、校歌の大合唱の歌声の録音を披露していただきました。



また中村三姉妹の長女の結花（ゆうか）さんは、日本とルワンダという二つの国の過去の歴史から学び、国を越えて手を取り合って歩むことの大切さと、将来はお医者さんになって世界中の人々の病気を治す手助けをしたいという作文を読んでくれて、会場から拍手が送られました。



## 【ルワンダ新年会報告 2020・1・26】

場所：福島市吉井田学習センター調理室

ルワンダの教育を考える会の新年といえば、みんなでルワンダ料理を作って！食べて！夢を語ろう！とスタートするのが恒例となりました。年々、SNSでの呼びかけや、通信での配信もあり遠方から多くの会員様や、また福島県内など、日頃からサポートいただいている方々やご家族・ご友人など多くの参加者が集まり開催することができました。



ルワンダ料理を食べるだけではなく、料理に使う食材（お野菜など）を各調理台で楽しく切っている光景や、熱心に料理のレシピをマリールイズに聞きながらメモに取ってご自宅で作ります！と喜んでいる方々のお声が聞けて、とてもすてきな時間をみなさんと過ごすことができました。

来年度から青年海外協力隊として、ルワンダに派遣が決まっている JICA 二本松訓練所で訓練真っ最中の隊員が7名参加し、派遣先のルワンダでの活動に対する意気込みや熱い思いが聞けたこと、そして当会員の中でもルワンダ渡航を控えていた参加者、過去に渡航経験があった方々からのルワンダでのエピソードや、激励が送られた場面もありました。

2020年も、当会の活動や取り組みを通して“ルワンダという国をもっともっと多くの人たちの出会いの機会となるよう、一同ちから合わせてがんばってまいります！！”

# 20周年記念誌 編集委員募集

2000年10月に当会が発足しました。いろいろありましたが2020年10月に皆様のご協力により20年目を迎えようとしていることに感謝申し上げます。

そこで総会にて承認後、これまでの会の歩みを振り返り、会に携わってきた方々の想いや願いをまとめ、これからの会の運営に役立てたいと思います。ぜひ、あなたのお力をお貸しください。12月発行を目指したいと思います。

今までのつながりとこれからを担う方とのコラボで  
これからの10年をイメージ出来るような記念誌を考えています。



## お知らせ

総会 — 2020年5月24日(日) 13:00～ 場所:福島市内(予定)

協議事項 — 事業報告・決算・事業計画・予算案・役員改選

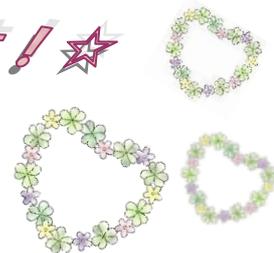
※ 詳しくは正会員にご案内いたします。会の発展のためにぜひご参加ください。

## ★各種振替口座番号のご案内です!★

会費振込・寄付・募金

郵便振替口座：02290-0-97126

加入者名：NPO法人 ルワンダの教育を考える会



【ゆうちょ口座自動振込み寄付】 月一口500円から

ホームページ掲載 目標100名まで継続して募集します。現在61名登録

## ルワンダフル クリスマスキャンペーンの報告

12月1日～12月31日まで、15件 448,726円のご寄付をいただいたことを報告します。ルワンダの子ども達のために活用させていただきます



### —編集後記—

福島第一原発事故の収束はまだまだ見通せず、震災から10年目  
ゼシウムの半減期は30年。



3月4日から新型コロナウイルスの影響で学校が休校。心は平常心で明日は良くなりますように！ T.S



NPO法人ルワンダの教育を考える会

理事長 永遠瑠マリルイズ

〒960-8036

福島県福島市新町8-21

TEL:024-563-6334 FAX:024-563-6335

ホームページ:<http://www.rwanda-npo.org>

福島 m a i l :info@rwanda-npo.org